

平成23年5月20日

## 史跡等の指定等について

文化審議会（会長 にしはら 西原 すずこ 鈴子）は、5月20日（金）に開催された同審議会文化財分科会の審議・議決を経て、史跡名勝天然記念物の新指定16件、追加指定等15件、登録記念物の新登録2件、追加登録等1件、重要文化的景観の新選定5件、追加選定2件について、文部科学大臣に答申しました。今回答申された史跡等の指定等の詳細については、別紙のとおりです。

この結果、官報告示の後に、史跡名勝天然記念物は3,042件、登録記念物は57件、重要文化的景観は29件となる予定です。

(別紙)

史跡名勝天然記念物

(平成23年5月20日現在)

種別	現在指定件数	今回答申件数			合計(既指定件数と答申件数との合計)
		新指定	解除	統合による減	
史跡 (うち特別史跡)	1,681 (61)	4 (0)	0 (0)	0 (0)	1,685 (61)
名勝 (うち特別名勝)	360 (36)	4 (0)	0 (0)	0 (0)	364 (36)
天然記念物 (うち特別天然記念物)	985 (75)	8 (0)	0 (0)	0 (0)	993 (75)
合計	3,026 (172)	16 (0)	0 (0)	0 (0)	3,042 (172)

(備考)

件数は、同一の物件につき、2つの種別に重複して指定が行われている場合(例えば、名勝及び天然記念物など)、それぞれの種別につき1件として数えたものです。

なお、重複指定物件を1件として数えた場合、

現在指定件数は、2,921件

答申後合計件数は、2,937件 です。

## 登録記念物

種 別	現在登録件数	今回答申件数		合計（既登録件数と答申件数との合計）
		新登録	抹 消	
遺跡関係	3	0	0	3
名勝地関係	48	2	0	50
動物、植物及び地質鉱物関係	4	0	0	4
合 計	55	2	0	57

（備考）

件数は、同一の物件につき、2つの種別に重複して登録が行われている場合（例えば、遺跡関係及び名勝地関係など）、それぞれの種別につき1件として数えたものです。

なお、重複登録物件を1件として数えた場合、

現在登録件数は、 54件

答申後合計件数は、 56件 です。

## 重要文化的景観

種 別	現在選定件数	今回答申件数		合計（既選定件数と答申件数との合計）
		新選定	解 除	
重要文化的景観	24	5	0	29

「新指定・新登録・新選定」答申物件

《史跡名勝天然記念物の新指定》

【史跡】 4件

1 きゅうおくゆきうすえきていしよ 旧奥行臼駅通所【北海道野付郡別海町】

明治43年（1910）に設置され、北海道内の宿泊・運送の拠点となった施設。

2 うまむかいやまこふん 宇摩向山古墳【愛媛県四国中央市】

東西70m、南北46mの墳丘に2基の横穴式石室をもつ四国最大の長方形墳と考えられる古墳。

3 あしきさんじょうあと 阿志岐山城跡【福岡県筑紫野市】

古代大宰府に関連して築城された山城跡で、東アジア対外関係史上も重要。

4 ひゅうがこくぶんじあと 日向国分寺跡【宮崎県西都市】

天平13年（741）聖武天皇の詔により建立された古代日向国の国分寺。

【名勝】 4件

1 でんぼういんていえん 伝法院庭園【東京都台東区】

江戸時代初期に起源する浅草寺本坊の池泉庭園で、意匠・構造は優秀。

2 とのやとていえん ずいぎえん 殿ヶ谷戸庭園（随宜園）【東京都国分寺市】

昭和初期に岩崎彦彌太が段丘崖の湧水・樹叢を生かして改修した別荘庭園。

3 ふじごこ 富士五湖  
やまなかこ 山中湖  
かわぐちこ 河口湖  
さいこ 西湖  
しやうじこ 精進湖  
もとすこ 本栖湖

【山梨県南都留郡富士河口湖町、山中湖村、南巨摩郡身延町】

富士山の火山活動により形成された風致景観の優秀な5つの湖沼。湖面の「逆さ富士」は有名。

4 きゅういとうでんえもんしていえん 旧伊藤傳右エ門氏庭園【福岡県飯塚市】

明治後期～昭和初期に、筑豊炭鉱経営者が造った本邸の優秀な回遊式庭園。

【天然記念物】 8件

1 ひらぬか しぜんりん 平糠のイヌブナ自然林【岩手県二戸郡一戸町】

太平洋側を中心に分布するイヌブナの北限域に残された良好な森林で貴重である。

2 くぐなりはま くくなはま 十八鳴浜及び九九鳴き浜【宮城県気仙沼市】

宮城県気仙沼市には、十八鳴浜と九九鳴き浜という良好に保存された鳴砂の浜がある。

3 ぜんようじょうごう 善養寺影向のマツ【東京都江戸川区】

クロマツの巨木。樹高約8mで枝が横に広がり、均整のとれた日本屈指の樹形を示す。

4 かきたがわ 柿田川【静岡県駿東郡清水町】

富士山の溶岩の間から流れ出す、日量100万tに達する豊富な水量の湧水。

5 なかむらがわ せいそくち 中村川ネコギギ生息地【三重県松阪市】

学術上貴重な淡水魚ネコギギが高密度で生息する、重要な生息地である。

6 おのがわ あそよんかさいりゅうたいせきぶつ まいぼつじゆもくぐん 小野川の阿蘇4火砕流堆積物及び埋没樹木群【大分県日田市】

9万年前の阿蘇火山最大の噴火に伴う阿蘇4火砕流堆積物と埋没樹木群。

7 たけた あそかさいりゅうたいせきぶつ 竹田の阿蘇火砕流堆積物【大分県竹田市】

大分県竹田市では、阿蘇火山の4回の火砕流堆積物の全てが観察できる。

8 きつまくろしま しんりんしょくぶつぐんらく 薩摩黒島の森林植物群落【鹿児島県鹿児島郡三島村】

独特な植物相の森林が残され海岸線から山頂部までの植生の連続的変化が見られる。

## 《登録記念物の新登録》

### 【登録記念物】 2件

#### (名勝地関係)

1 ひがしゆうえんち **東遊園地【兵庫県神戸市】**

明治8年の日本最古の公園の一つ。阪神・淡路大震災の慰霊・復興の場としての意義も持つ。

2 せいかえん **棲霞園【長崎県平戸市】**

平戸藩主松浦氏の別邸庭園。幕末期の平戸の庭園を特徴づける造形をよく残す。

## 《重要文化的景観の新選定》

### 【重要文化的景観】 5件

1 とねがわ わたらせがわごうりゅういき みずばけいかん **利根川・渡良瀬川合流域の水場景観【群馬県邑楽郡板倉町】**

大河川の合流域である低湿地（水場）において形成された独特の文化的景観。

2 さどにしみかわ さきんざんゆらい のうさんそんけいかん **佐渡西三川の砂金山由来の農山村景観【新潟県佐渡市】**

砂金採掘から農林業へと構造転換した当地の歴史的変遷を示す独特の文化的景観。

3 おくあすか ぶんかてきけいかん **奥飛鳥の文化的景観【奈良県高市郡明日香村】**

飛鳥川上流域の地形に即した居住及び生業の在り方を示す独特の文化的景観。

4 させぼしくろしま ぶんかてきけいかん **佐世保市黒島の文化的景観【長崎県佐世保市】**

アコウ防風林と石積みの居住地や畑地など独特の土地利用による文化的景観。

5 ごとうしひさかじま ぶんかてきけいかん **五島市久賀島の文化的景観【長崎県五島市】**

地形条件に応じた居住及び農業・漁業形態とツバキ産業による文化的景観。

# 史跡等の指定等

## 《 史跡の新指定 》 4 件

### 1 きゅうおくゆきうすえきていしよ 旧奥行臼駅逦所 【北海道野付郡別海町】

旧奥行臼駅逦所は、明治43年(1910)から昭和5年(1930)までの間、人馬の継ぎ立てと宿泊、物資の逦送等の便宜を図った施設であり、北海道東部の根室と別海の間、根室湾から約9km内陸の別海町奥行に所在する。駅逦所とは、近代の北海道において、交通不便の地に駅舎や人馬等を備え、宿泊・輸送等の便宜を図った施設である。駅逦所開設に際しては、地元で牧畜業を営む山崎藤次郎が駅逦取扱人となり、その自宅が駅舎として使用された。駅舎は、明治末から大正初期の増築を経て、大正9年(1920)には客室として2階建ての寄棟が増築され、物資運搬等の拠点として機能した。その後、殖民軌道根室線の開通や、内陸部への入植が進んだことから昭和5年に廃止された。当時を偲ばせるものとして、駅舎1棟、馬屋2棟、倉庫1棟が現存する。このうち駅舎は、木造寄棟造(一部切妻造)二階建て建物であり、駅逦最盛期の大正時代の趣きを残す。周囲には旧道や駅逦所時代以来の牧草地が広がり、往時の歴史的景観を今に良く伝えているほか、古文書、調度品等も多数残されている。このように、旧奥行臼駅逦所は、我が国近代の北海道開拓の歴史を知る上で貴重である。

### 2 うまむかいやまこふん 宇摩向山古墳 【愛媛県四国中央市】

宇摩向山古墳は金生川の東岸、丘陵の先端部に立地する四国最大の長方形墳と考えられる古墳であり、1つの墳丘に2基の横穴式石室が平行して築かれる特異な構造を有している。

現在墳丘は大きく改変を受けているが、平成15年から行われた四国中央市による調査の結果、墳丘は東西に長い長方形であり、その外周に幅5m前後の周濠が巡ることが確認された。墳丘の規模は、東西70m、南北46mと推定され、四国最大にして全国でも最大級の長方形墳と考えられる。

横穴式石室はいずれも南に開口しており、西側の1号石室は全長10.8m、現在埋没状況にある2号石室は全長14.3m以上であり、ともに四国最大級の規模を誇る。なお、石室から出土した遺物から、7世紀前半の築造と考えられている。ただし、石室内において十分な調査が行われていないため、被葬者の性格等は不明である。

当該地域においては、この宇摩向山古墳の築造を最後に大規模古墳が築かれなくなる。このことから、古墳時代終末期において、当時の政治的・社会的状況を知る上で重要な古墳といえる。

### 3 あしきさんじょうあと 阿志岐山城跡 【福岡県筑紫野市】

阿志岐山城跡は、特別史跡大宰府跡の東南東5kmに位置し、標高339mのほぼ円錐形を呈する宮地岳の西側斜面に築かれた古代の山城跡である。標高140~250mの山腹に3

基の水門を取り込んだ総延長 1,340mの列石とその上部に築かれた土塁は、宮地岳の西側約 2/5 を巡り全周はしない。しかし、平野部から宮地岳を臨むと、その中腹に列石が巡るように見え、山全体を防御施設として見立てていたことがわかる。

また、列石は、瀬戸内でよく見られる直線と折れによって構成され、石列の下に基底石を据える独自の工法と併せて、構造的な観点からも注目される。

7世紀後半代の北部九州では、663年の白村江の戦いで唐・新羅連合軍に大敗したことを契機に、大宰府政庁を中心に翌664年には水城が、665年には大野城や基肄城が構築される。それらに近接する阿志岐山城跡は、このような歴史的背景のもとで築造された山城と考えられ、当該期の東アジアを中心とした日本の対外関係を考える上でもきわめて重要である。

#### 4 ひゅうがこくぶんじあと 日向国分寺跡 【宮崎県西都市】

日向国分寺跡は、天平13年(741)、聖武天皇の詔により全国に造営された国分寺の一つで、宮崎県のほぼ中央部を日向灘にむけて東流する一ツ瀬川右岸の中間台地上に位置する古代寺院跡である。周囲には史跡日向国府跡や、日向国分尼寺の有力推定地とされている諏訪遺跡など古代の遺跡が点在している。

発掘調査の結果、推定講堂・中門・西門及び伽藍南東隅の回廊等が確認され、伽藍中樞部の規模が、東西約80m、南北77m以上であることが明らかとなった。その東側では、寺院に関連する掘立柱の建物群や寺域の区画施設があることも明らかとなり、寺域は東西約150m、南北約190mと想定されている。

出土遺物には多量の瓦類や畿内系土師器や墨書土器がある。軒瓦には、九州地方の他の国分寺と類似するものがある。出土した瓦の分析から、8世紀後半に造営され、9世紀末には衰退したものと考えられる。

日向国分寺跡は伽藍中樞部及び寺域の範囲がほぼ明らかとなり、特に推定講堂などの遺構の残存状況は良好である。出土した瓦から、大宰府や九州地方の他の国分寺との関係が想定され、国分寺造営の実態を示すとともに、古代日向国の政治情勢を示す上でも重要である。

### 《 名勝の新指定 》 4件

#### 1 でんぼういんていえん 伝法院庭園 【東京都台東区】

伝法院は徳川幕府の祈願所である浅草寺の本坊で、客殿・大書院など一群の建造物の北及び西の低地に優美な池泉庭園が展開する。現在の庭園の骨格は、江戸時代初期に完成していたものと見られるが、明治時代に池泉に近接して大書院が建造され、現在見る地割が完成した。

北側の池泉は比較的単調な意匠・構造を持ち、その西南隅からやや幅の狭い溪流風の池泉が西側の池泉へと通ずる。西側の池泉の意匠・構造は変化に富み、大書院からは、出入りの多い池尻付近の汀線、出島状の築山、枯滝石組みへと連なる対岸の風景を一望することができる。

また、池泉の周りを巡る園路は、築山の頂部や池泉のほとりへと通ずる石段、沢飛石、中島や流れに架かる橋など、歩みに伴って風景の移り変わりを次々と生み出す仕掛けに富んでおり、元は回遊式庭園であった可能性が高い。

大書院の北から西への低地に広がる池泉を中心として、豪壮な枯滝石組み、中島・築山と一体を成す出入りの多い汀線など、多彩な景が展開する伝法院庭園の造園意匠は優秀であり、その芸術上の価値は高い。

## 2 <sup>との や とていえん ずいぎえん</sup> 殿ヶ谷戸庭園 (随宜園) <sup>こくぶんじがいせん</sup> 【東京都国分寺市】

武蔵野段丘の南縁の「国分寺崖線」と呼ぶ段丘崖とその下端部付近の礫層から浸出する湧水を利用し、雑木林の風致を生かして造られた近代の別荘庭園。

三菱合資会社の社員で、後に南満州鉄道副総裁から貴族院議員にもなった江口定條<sup>えぐちさだえ</sup> (1865～1946) は、大正2年(1913)～4年(1915)にこの地に別荘を構え、「随宜園」と命名した。昭和4年(1929)に、三菱合資会社の経営者であった岩崎彦彌太<sup>いわさきひこやた</sup> (1895～1967) が江口家から別荘を買い取り、「国分寺の家」として親しむようになった。彦彌太は、昭和9年(1934)に和洋折衷の木造主屋に建て替え、庭園建築として紅葉亭<sup>こうようてい</sup>を新築するとともに、主屋前面の芝生地と崖線下方の湧水及び園池とを結んで、回遊式庭園を完成させた。

庭園は、段丘上に広く展開する芝生地の洋風庭園、アカマツ・モミジ・竹林・クマザサに覆われた崖線の傾斜面、段丘上面の井戸からの導水及び崖線の下端付近からの湧水を集めて造成された次郎弁天池を中心とする和風庭園などから成る。同時代に作庭された類似の武蔵野の別荘庭園の中でも当時の風致景観を最もよく残し、その芸術上の価値は高い。

## 3 <sup>ふじごこ</sup> 富士五湖 <sup>やまなかこ</sup> 山中湖 <sup>かわぐちこ</sup> 河口湖 <sup>さいこ</sup> 西湖 <sup>しやうじこ</sup> 精進湖 <sup>もとすこ</sup> 本栖湖

### 【山梨県南都留郡富士河口湖町、山中湖村、南巨摩郡身延町】

富士山の北麓には、富士山の火山活動の過程で形成された複数の堰止湖が弧状に分布し、その中でも山中湖・河口湖・西湖・精進湖・本栖湖は、規模及び風致景観の観点から、特に昭和の始め以来「富士五湖」と総称されてきた。

西湖・精進湖・本栖湖は、「古割こせの海うみ」と呼ぶ一つの大きな湖沼が溶岩流により分断・形成されたとされ、河口湖も同時期の火山活動に起因して成立し、その後の溶岩流により現在の湖沼の原形が完成したとされている。また、山中湖は8世紀末期から10世紀前半にかけての溶岩流により成立したとされている。

富士五湖は、「八海巡り」と呼ぶ富士講の水行の場として、富士山信仰の霊場の中核を成した。また、葛飾北斎や歌川広重など世界的に著名な浮世絵をはじめ、近世～近代に多くの絵画・写真などの芸術作品の対象となり、特に湖面に映える富士山の倒立像は「逆さ富士」として広く知られるようになった。

このように、富士山の火山活動の過程で形成された5つの湖沼群は、富士山信仰と深く関連するとともに、数多の芸術作品の対象ともなり、その風致景観が持つ観賞上の価値は高い。

#### 4 きゅういとうでんえもんしていえん 旧伊藤傳右エ門氏庭園 【福岡県飯塚市】

北部九州の筑豊地区における代表的な炭鉱経営者の一人である伊藤傳右エ門（1860～1947）は、大正時代中頃から昭和時代初期にかけて、遠賀川中流左岸の微高地びやくれんに大規模な池泉庭園を伴う本邸を造営した。傳右エ門は、明治44年（1911）に、後に白蓮の名の下に歌人として知られるようになった柳原燐子やなぎわらあきこと再婚し、本邸の建築と庭園を完成させた。

庭園は、導入部の馬廻しを中心とする広場をはじめ、建築群に挟まれた中庭、敷地北半を占める大規模な主庭の3つの部分から構成される。そのうち、特に主庭は流れ及び2つの池泉の背後に緩やかに盛り上がる築山などから成り、主屋からの展望を意図した庭園であるとともに、回遊式庭園でもある。石造の太鼓橋、2基の石造噴水、敷地の西北隅・東北隅の石塔、随所に据えられた様々の石燈籠、築山の頂部に建つ茅葺き八角形の四阿あずまやなど、近代の回遊式庭園として十分な質と量を誇る庭園景物が見られる。

筑豊炭鉱経営者の本邸庭園として貴重であり、変化に富んだ展望と特質のある景物には優秀な造園意匠が認められ、その芸術上の価値は高い。

### 《 天然記念物の新指定 》 8件

#### 1 ひらぬか 平糠のイヌブナしぜんりん自然林 【岩手県二戸郡一戸町】

本地域は太平洋側に分布するイヌブナの北限域にあたり、指定対象は北限域に良好に残された森林である。指定地は平糠川右岸に流入する小支流深沢の左岸で、標高は400～670mで尾根筋から沢までの北東に面した斜面である。イヌブナはブナ科ブナ属の落葉高木で、ブナと異なり株立ちとなる。分布は本州（岩手以南）・四国・九州（宮崎以北）の主に太平洋側で、シイ・カシ林とブナ林との中間域に成立する森林の代表的な樹種の

一つである。ブナとも混交するが、ブナより多少標高が低い地域に分布し、シデ類やコナラの落葉広葉樹、モミ・ツガなどの温帯性針葉樹と混交することが多い。イヌブナの北限はかつて岩手県花巻市と宮古市を結ぶ線とされていた。しかし、昭和57年頃から一戸町史編纂にあたり、地元調査員がイヌブナを確認し町史に掲載した。その後、研究者による調査が行われ、一戸町・葛巻町でさらにイヌブナの分布地を確認し、平成4年に報告された。対象地はこの北限地域の中でも最も規模が大きく、良好な群落を形成している。当該地域はイヌブナの北限域として、典型的な森林が良好に残されたもので、学術的価値も高く、天然記念物として指定し保護を図るものである。

## 2 <sup>くぐなりはま</sup>十八鳴浜及び<sup>くくなはま</sup>九九鳴き浜 【宮城県気仙沼市】

十八鳴浜は、宮城県気仙沼市大初平にあり、気仙沼湾に浮かぶ大島（面積9.05 km<sup>2</sup>）の北東部に位置する鳴砂の浜である。九九鳴き浜は、宮城県気仙沼市唐桑町西舞根にあり、唐桑半島の西部に位置し、大島瀬戸に面した鳴砂の浜である。

どちらの浜も周辺に分布する地質は、中生代ジュラ紀後期の舞根層と小々汐層で、鳴砂の主成分である石英粒子の供給源と考えられる。

十八鳴浜の名前の由来については諸説がある。この浜を歩くと「キュッキュッ」「クックッ」という衣ずれに似たような音を発するところから、「9+9=18」と表現し、「くぐなり」と表音転訛したものと考えられている。また、十八鳴浜の鳴砂は、我が国で初めて学術誌に報告されたもの（『地学雑誌』明治27年）である。九九鳴き浜の名前の由来は、十八鳴浜と同様に、砂浜を歩くと発する「キュッキュッ」や「クックッ」という発音に起因するものと考えられる。

どちらの浜も、地域住民、気仙沼市などが連携した清掃活動などの取り組みが盛んで、保存状況は良好である。

※ 二つの浜とも、3月11日の東日本大震災の際に津波の侵入を受けた。地震直後の気仙沼市教育委員会の現地確認及び専門家の調査により、撤去可能な瓦礫が散乱しているものの、浜の砂の量は変わらず、砂も鳴くことが確認されている。

## 3 <sup>ぜんようじょうごう</sup>善養寺影向のマツ 【東京都江戸川区】

東京都江戸川区東小岩の江戸川河畔に位置する真言宗豊山派の善養寺に生育するクロマツの巨木である。樹高約8m、根元周囲4.5mほどであるが、地上2mの位置で枝が四方に伸び、東西方向約31m、南北方向約28mにおよぶ樹冠を形成し、均整のとれた枝振りにより日本屈指の樹形を示す。

かつて善養寺には、樹冠の大きくひろがった影向のマツと樹高の高い星降松（初代）の2本のマツがあり、大町桂月の「東京遊行記」（明治39年）、鏑木清方の「新江東図説」（昭和12年）などにより類希な景観としてたたえられていた。昭和50年代に香川県大川郡志度町（現 さぬき市）にある真覚寺の岡野松と繁茂面積日本一を競い、大相

撲立行司木村庄之助により東西の横綱に引き分けられたとの新聞記事が残されている。初代の星降松，岡野松は枯死し，影向のマツも一時は樹勢が衰退した。その後の樹勢回復対策により，現在は生育状況も良好となった。独特の樹形で最大級の樹冠を広げるまでに生育したマツとして大変貴重であり，地域のシンボルとしても親しまれ大切にされており，天然記念物に指定し一層の保護を図るものである。

#### 4 かきたがわ 柿田川 **【静岡県駿東郡清水町】**

富士山はおよそ 10 万年前に誕生した火山で，日本の平均的な火山の体積と比べ，30 倍以上と群を抜いて大きい。この巨大な山体に降る多量の雨や雪が，地下にしみ込んで，やがて湧水として湧き出す。富士山麓には多くの湧水が知られ，その数は 100 を数える。これらのうち規模の大きな湧水は，いずれも今から 11,000～8,000 年前の大噴火の際に，富士山頂付近から流れ下った新富士旧期溶岩流（三島溶岩流）の末端に位置する。

柿田川は静岡県清水町にあり，国道 1 号のすぐ南側の溶岩層からの湧水を水源として，狩野川に合流する。川幅 30～50m，延長わずか 1,2 km の川であるが，日量 100 万 t 以上の湧出量は，東洋一とも言われ，水温は年間を通じて 15℃前後と安定している。

日本の高度成長期，富士山麓の豊富な水に着目し，多くの企業が進出し地下水を汲み上げることにより，1960年代から湧水量の減少が起こった。こうした柿田川を取り巻く環境の変化に呼応し，住民の柿田川に対する関心が高まるとともに，（財）柿田川みどりのトラストなどによる湧水環境を守る運動が進められ，保護が図られてきた。

#### 5 なかむらがわ 中村川 せいそくち ネコギギ生息地 **【三重県松阪市】**

ネコギギはナマズ目ギギ科に分類される，日本固有の淡水魚である。体長は 10cm 前後，体色は黄色味を帯びた茶褐色で，8本の口ひげを持つ。日本産淡水魚の中でも特異な分布を示し，伊勢湾・三河湾に流入する河川にしか生息していないこと等から，生物地理学上貴重な種であり，昭和 52 年（1977）に，地域を定めない国の天然記念物に指定されている。指定対象区域は，三重県松阪市を流れる雲出川水系中村川の中流に位置する。三重県教育委員会による調査から，当該河川で多数のネコギギが目視により観察され，高密度で生息していることが確認された。指定対象区域はネコギギの隠れ場所となる巨礫や大礫等が多く，河川改修等もほとんど行われておらず，好適な生息地が維持されている。また，地元の中村川漁業協同組合がネコギギの密漁防止パトロールを自主的に実施するなど，地域住民の本種に対する保護意識も高い。ネコギギが高密度で多数生息し，生息環境も良好な状態で維持され，地域住民の保護意識も高い，有数の生息地であることから，地域を定めない国の天然記念物に指定されている貴重なネコギギについて，さらにその生息地を天然記念物に指定することで，一層の保護を図るものである。

## 6 おのがわ あそよんかさいりゆうたいせきぶつ まいぼつじゆもくぐん 小野川の阿蘇4火砕流堆積物及び埋没樹木群 【大分県日田市】

阿蘇火山は、九州の中部にある世界有数のカルデラ火山である。なかでも9万年前の阿蘇4火砕流は、阿蘇火山最大の噴火によるものであり、火砕流は山口県萩市まで到達しており、火山灰は遠く北海道東部まで飛散している。

大分県日田市小野川沿いに、この阿蘇4火砕流堆積物と火砕流になぎ倒されて取り込まれた樹木化石が、良好に産出することが最近の調査で明らかになった。

小野川で発見された阿蘇4火砕流堆積物を含む地層は、堆積した順に5つに分けられる。①火砕流が流れる以前の地表面を構成していた当時の河床礫堆積物。②阿蘇4火砕流堆積物で、③火山泥流の堆積物、④土石流堆積物、⑤現小野川河床に続く河床礫堆積物となる。埋没樹木群は、②層の上部に集中する。

また埋没樹木は、トウヒ属やヒノキ科、スギを主体とする針葉樹が優先する。さらに樹木は、二次堆積による「異地性化石」であり、大きく変形している。また、樹木化石の最外年輪から、火砕流の発生時期は、晩秋から晩春にかけての時期であることが推定される。

このように小野川では、火砕流の堆積の詳細と噴火後の泥流や土石流の発生という阿蘇4火砕流堆積物の堆積の詳細が観察され、火山国日本においても最大級の火山噴火について多くの新たな知見が得られた。

## 7 たけた あそかさいりゆうたいせきぶつ 竹田の阿蘇火砕流堆積物 【大分県竹田市】

大分県竹田市は、一級河川大野川の支流稲葉川沿いに展開する、近世城郭として、また、滝廉太郎の荒城の月の舞台としても著名な史跡「岡城跡」の城下町である。

阿蘇火山は、九州の中部にある世界有数のカルデラ火山である。阿蘇火山は約30万年前の阿蘇1火砕流の噴出で始まり、約9万年前の阿蘇4火砕流までの間に4回の火砕流を流出する大噴火により、現在の阿蘇火山を象徴する大カルデラができた。火砕流堆積物のうち特に溶結凝灰岩は、石材として利用され、城の石垣、石橋、磨崖仏など九州の歴史と暮らしを語る上でも欠くことができない。

阿蘇火砕流堆積物は、当時の九州全域を覆い地形を平坦化した。岡城は、南北を稲葉川と玉来川に挟まれた平坦面上に位置するが、この平坦面は阿蘇火砕流堆積物の堆積した面であり、岡城の石垣も阿蘇火砕流堆積物の溶結凝灰岩を利用している。このように阿蘇火砕流堆積物は、九州の地形形成に大きな影響を与えたばかりでなく、石材としての重要性を持つ。こうした重要性をもつ阿蘇1～阿蘇4の全ての火砕流堆積物が観察できるのは、竹田地域だけである。竹田市周辺では、火山国日本を代表する阿蘇火山の火砕流堆積物の全てを狭い範囲で観察することができる。

## 8 さつまくろしま しんりんしょくぶつぐんらく 薩摩黒島の森林植物群落 【鹿児島県鹿児島郡三島村】

薩摩黒島は、大隅諸島のうち薩摩半島と屋久島のほぼ中間に位置する三島村の島々の一番西にある島である。黒島はトカラ火山列の旧期火山島で、新第三紀中新世から第四

紀更新世に成立したとされる安山岩からなる古い火山島である。そのため、強い波食の影響を受けた海食崖に囲まれた地形で、海沿いから断崖部、緩斜面部、山岳部に区分される。海岸沿いの断崖部は岩の割れ目に根を張ったマルバニッケイ群落が生息し、緩斜面部・山岳部ではスタジイ群落、アカガシ群落などの照葉樹を中心とした森林が成立している。山岳部では、中国原産と考えられていたハラノや本土の山地に生育するスズタケ、トカラ列島に固有なトカラカンアオイなどが林床に生育する独特の植物相を持った森林が発達している。さらに、アカガシは屋久島が南限となり、このような小面積の島でアカガシが分布することは全国的にも非常に希なことである。このような特異な植物相の森林植物群落が、海岸線付近から山頂部まで連続的に良好な状態で残されており、天然記念物として指定し保護を図る。

## 《 史跡の追加指定及び名称変更 》 1 件

### 1 だいわたりがんがいせきぐん 台渡里官衙遺跡群 だいわたりがんがいせき 台渡里官衙遺跡 だいわたりはいじあと 台渡里廃寺跡

【茨城県水戸市】 (旧名称 台渡里廃寺跡)

7世紀後半から10世紀初頭にかけて営まれ、常陸国那賀郡衙(家)関連寺院と考えられる台渡里廃寺跡に、8世紀初頭から9世紀後半に至り、郡衙(家)正倉と考えられる台渡里官衙遺跡を追加指定し、併せて名称変更を行う。

## 《 史跡の追加指定 》 12 件

### 1 いりえ たかさごかいづか 入江・高砂貝塚 【北海道虻田郡洞爺湖町】

縄文時代後期を中心とする入江貝塚と、後期初頭から晩期にかけての高砂貝塚からなる史跡。両貝塚の周辺には竪穴建物や配石遺構のほか、多数の墓が検出されている。今回はこのうち高砂貝塚について、指定の要件が整った地域を追加指定するものである。

### 2 いさわじょうあと 胆沢城跡 【岩手県奥州市】

胆沢城跡は古代の東北経営の拠点として鎮守府が置かれた城柵遺跡である。方八丁地区の一部と、南側400mの地点に位置する、大型掘立柱建物からなる胆沢城に関連する伯濟寺地区を追加指定する。

### 3 しもふだいせき 下布田遺跡 【東京都調布市】

下布田遺跡は、一辺6mに及ぶ大型の方形配石遺構や石棒等が多数集中する土坑、さらには土坑墓や合口土器棺墓等によって構成される、縄文時代晩期の東日本を代表する祭祀・墓地遺跡である。

### 4 きたおうみじょうかんあとぐん 北近江城館跡群 しもさか しやかたあと 下坂氏館跡 みたむらしやかたあと 三田村氏館跡 【滋賀県長浜市】

滋賀県湖北東岸地域に所在する下坂氏館跡において、発掘調査の結果、検出された堀跡等を追加指定する。下坂氏は南北朝期以降の国人領主で、戦国期には京極家や浅井家に従い、江戸期以後も存続している家である。

### 5 ちやうしやまこふん 銚子山古墳 だいちこふん 第一古墳 だいにこふん 第二古墳 【京都府京丹後市】

京都府北部丹後半島に所在する、古墳時代前期末に築かれた墳長198mの前方後円墳とその陪塚とみられる2基の円墳からなる。大和政権と丹後地域の政治状況を知る上で重要な古墳。3基の古墳の墳丘周辺の発掘調査を実施した結果、新たに確認された周濠等の部分を追加指定する。

### 6 たじまこくぶんじあと 但馬国分寺跡 【兵庫県豊岡市】

天平13年(741)、聖武天皇の詔によって全国に造営された国分寺の一つ。中門、金堂、塔跡等の遺構が残る。今回、中門、東面回廊、及び推定講堂跡部分を追加指定する。

### 7 とくしまはんまつほ だいはあと 徳島藩松帆台場跡 【兵庫県淡路市】

徳島藩松帆台場跡は、幕末、大坂湾防衛の一環として、淡路島北端に徳島藩が築造した台場の跡であり、土塁とその内部に築かれた火薬庫、船を係留する松帆湊が見つまっている。今回、松帆湊の南西側に隣接する部分を追加指定する。

### 8 あおやかみじちいせき 青谷上寺地遺跡 【鳥取県鳥取市】

鳥取県の東部、青谷平野の中央部に位置する弥生時代の集落跡。木造構造物や水田跡などを検出するとともに、当時の生活や交流を示す多種多様な遺物が多量に出土。弥生時代の社会のあり方を知る上で極めて重要な遺跡。

9 <sup>はぎおうかん</sup>萩往還 【山口県山口市，萩市，防府市】

萩往還は、萩から防府三田尻までの約 53 kmに及ぶ、江戸時代の山陰と山陽を結ぶ主要街道。今回、瀬戸内海への玄関口となる御舟倉跡おふなぐらの水面及び有力合物商人あいのものとして名をばせ、本陣ともなった兄部家の敷地の一部を追加指定する。

10 <sup>おごおりかんがいせきぐん</sup>小郡官衙遺跡群  
<sup>おごおりかんがいせき</sup>小郡官衙遺跡  
<sup>かみいわたいせき</sup>上岩田遺跡 【福岡県小郡市】

7世紀後半から8世紀後半の官衙や倉庫などの建物群からなる代表的な官衙遺跡。筑後国御原郡衙に比定される。残存状況が良好で、3期にわたる時期変遷や政庁機能移動の様相が分かる。今回、小郡官衙第Ⅲ期の区画施設の一部を追加指定する。

11 <sup>いしぬきあながんのんよこあな</sup>石貫穴観音横穴 【熊本県玉名市】

石貫穴観音横穴は、近接する石貫ナギノ横穴群とともに、菊池川流域に多数存在する古墳時代の横穴の中でも、羨門せんもんや屍床ししょうの構造はもちろん、赤や白による円文、線刻による盾、船を模倣したとみられる屍床等において、それらを代表する装飾横穴である。

12 <sup>おおともしいせき</sup>大友氏遺跡 【大分県大分市】

大友氏遺跡は、戦国大名大友氏の守護所が置かれた館跡とその菩提寺である万寿寺跡から構成される。館跡の中央南側の一画と、万寿寺跡の経蔵跡と伝えられる土壇を含む境内地南半部分を追加指定する。

《 名勝の追加指定及び名称変更 》 2件

1 <sup>えんげつとう たかしま</sup>円月島（高嶋）及び千畳敷 <sup>せんじょうじき</sup> 【和歌山県西牟婁郡白浜町】（旧名称 円月島（高嶋））

千畳敷は新生代第三紀の砂岩の巨岩で、江戸時代や近代の紀行文において、円月島（高嶋）とともに描かれた南紀白浜を代表する海浜の風致景観。その観賞上の価値は高く、既指定の円月島（高嶋）に千畳敷を追加指定する。

2 <sup>たちばな しいえん</sup>立花氏庭園 【福岡県柳川市】（旧名称 <sup>しょうとうえん</sup>松濤園）

立花氏庭園は、「御花畠」と呼ばれた江戸中期の柳川藩主立花家の別邸を前身として主に明治末期に造られた立花家の邸宅の庭園。近世の池泉回遊式庭園を改修して敷地の東半に営まれた奥向きの庭園、及び「家政局」の建物を含む区域を追加指定し、邸宅の全域を保護する。

## 登録記念物の登録等

## 《登録記念物（名勝地関係）の新登録》 2件

### 1 <sup>ひがしゆうえんち</sup>東遊園地【兵庫県神戸市】

明治8年（1875）に「内外人公園地」として神戸に開設された日本最古の公園の一つ。神戸外国人居留地の東に接することから、大正11年（1922）以降は「東遊園地」と呼ばれるようになった。開設当初の敷地形状を残し、園内には明治3年（1870）に来日した実業家で、スポーツの振興や居留地の運営・防災にも尽力したA・C・シム（1840～1900）の記念碑が存在する。

また、平成7年（1995）の阪神・淡路大震災後には、被災者の慰霊及び復興を祈念して記念碑が建立され、毎年1月17日に追悼行事が行われている。

東遊園地は、居留外国人と日本人との交流の契機をもたらしたのみならず、公園の発生とその後の発展、市民生活における公園の役割等をも明確に示しており、造園文化の発展に寄与していることから、その意義は深い。

### 2 <sup>せいかえん</sup>棲霞園【長崎県平戸市】

平戸藩主松浦氏の別邸の庭園で、平戸城の本丸が位置する亀岡山の西北傾斜面及びその山麓の平坦な芝生地から成る。天保4年（1833）に第10代藩主松浦<sup>まつらひろむ</sup>熙が園内に建立した花畑碑の碑文によると、文化7年（1810）に庭園の修築を開始し、文政12年（1829）に完成したことが知られる。現存する庭園・建造物の地割・位置は、元治元年（1864）に製作された『御花畑<sup>おはなばたけ</sup>絵図』との照合が可能である。

平地の少ない平戸らしく、常緑広葉樹林に覆われた傾斜面とその裾部の地形を生かして造られ、平戸地方の幕末期の庭園を特徴づける造形をよく残していることから、その意義は深い。

## 《登録記念物（名勝地関係）の追加登録及び名称変更》 1件

### 1 <sup>きゅういとう していえん</sup>旧伊東氏庭園（<sup>しめいそうていえん</sup>四明荘庭園）【長崎県島原市】（旧名称 <sup>いとう していえん</sup>伊東氏庭園）

<sup>うんせんだけ</sup>温泉岳の伏流水に恵まれた島原には、湧水を利用して築庭された住宅が複数存在し、「水屋敷」として市民に親しまれている。その一つがこの庭園で、特に四方の眺望に優れていることから「四明荘庭園」の異称を持つ。

主屋増築の経緯から、大正時代～昭和初期の作庭とされている。水面上に迫り出す縁先からは、静かに湧き出ずる清逸な水面と、その上を僅かに吹き渡る清涼な微風を実感できる。湧水に臨んで打たれた沢飛石や多彩な石燈籠などの景は変化に富んでおり、造園文化の発展に十分寄与していることから、平成20年7月28日に登録記念物（名勝地関係）に登録された。

今回、北西隅部の敷地等を追加登録するとともに、島原市による敷地の公有化による所有者の変更に伴う名称変更を行う。

# 重要文化的景観の選定等

## 《 重要文化的景観の新選定 》 5件

### 1 とねがわ わたらせがわごうりゅういき みずばけいかん 利根川・渡良瀬川合流域の水場景観 【群馬県邑楽郡板倉町】

群馬県の最東端に位置する板倉町には、利根川と渡良瀬川との合流点に形成された低湿地（水場）が展開している。そのため当地は古くから洪水多発地帯であり、豊かな土壌・生態系が育まれる一方、生活を営むために様々な工夫が行われてきた。当地における人々の居住は縄文時代から確認されるが、広大な沖積低地における集落形成や開墾は、中世末期から近世にかけて実施された築堤や河川の瀬替えによって実現した。近代には大規模な治水事業が行われ、現在に通じる水利システムが完成された。こうした治水事業によって開墾された低地では、主に水田耕作が行われている。水田の中には、河川や沼に面した湿地に溝を掘り、その掘削土を客土（揚げ土）し掘り上げ田を造成した、川田と呼ばれる農地も営まれている。また、自然堤防上等に形成されている居住地では、屋敷地の一面に土盛りをし、その上に水塚と呼ばれる避難用建物が築造されている。屋敷地の北西にはエノキ・ムクノキなど自然堤防の環境に適応した郷土種や、水防にも有効なタケ類が植栽されており、防風屋敷林として機能している。

このように、利根川・渡良瀬川合流域の水場景観は、大河川の合流域で形成された低地における、水と共生する生活・生業上の様々な工夫によって育まれた、価値の高い文化的景観である。

### 2 さどにしみかわ さきんざんゆらい のうさんそんけいかん 佐渡西三川の砂金山由来の農山村景観 【新潟県佐渡市】

佐渡島の南西部、真野湾に注ぐ西三川川流域一帯には金銀鉱床が展開しており、古くから砂金採掘が行われた結果、現在は斜面の掘削による平坦面・被植に乏しい裸地や地崩れ地形・独立丘陵など特異な地形が形成されている。砂金採掘の記録は平安時代に遡るが、産金量が増大した中世末期には砂金採掘の中心地であった西三川川中流域の山間地に集落が形成され、近世も徳川幕府の財政を支えた佐渡金銀山の一つとして西三川砂金山は栄えた。江戸時代中期以降は次第に産金量が減少し、明治5年（1872）に西三川砂金山は閉山となった。閉山後は砂金採掘跡や堤跡の田畑への転換、砂金流し用水路の農業用水路への転用といった農地開発が行われ、明治末期には現在の農山村へと産業構造の転換がほぼ完成するに至った。こうした田畑や水路は現在も機能しており、近世の鉱山跡地や鉱山技術を応用した農地開発にかかる土地利用の変遷を確認することができる。集落内では長年の砂金採掘によって生じたガラ石を用いて、家屋の敷地境界線や道路法面に石垣が築かれており、屋敷の配置構成も近世の砂金採掘時代の形態を継承していることが絵図によって示されている。

このように、佐渡西三川の砂金山由来の農山村景観は、古代から近代まで行われた砂金採掘によって形成された独特の地形・技術を、閉山後も巧みに土地利用に活かし農山村へと産業構造の転換を成功させた地域の歴史的変遷を示す、価値の高い文化的景観である。

### 3 おくあすか ぶんかてきけいかん 奥飛鳥の文化的景観 【奈良県高市郡明日香村】

明日香村の中央部を貫流し大和川へ注ぐ飛鳥川の源流域では、スギ・ヒノキが卓越する深い植林地の中に集落・農地が営まれている。奥飛鳥地域の記録は皇極天皇元年(642)に遡ることができ、中世末期には入谷・栢森・稲渚・畑の四大字が飛鳥川上流域のムラとして成立したとされる。地域ではハギやヤマブキなどいわゆる万葉植物の植生も卓越しており、豊かな生態系が育まれている。飛鳥川沿いに展開する河岸段丘面上や山裾、山の緩斜面上には、小規模な集落が展開する。いずれも斜面地に平場を造成するために、飛鳥川の川石や山を切り開いた際に出土した石材を用いた石積みを伴う。集落の中には、急傾斜の茅葺き屋根と緩傾斜の瓦葺き屋根を有した落棟とを組み合わせた大和棟の民家が点在しており、石積みと併せて独特の集落景観を形成している。地域では主に農業が営まれており、特に稲渚では地域でも有数の広さを誇る棚田が形成されている。棚田には15世紀に遡るとされる井手によって水が供給されており、最長3.8kmを誇る大井手をはじめ数十本の井手が耕作者によって管理されている。地域では集落から飛鳥川に降りる階段を設えたアライバが現在も機能しており、また盆迎え・盆送りが飛鳥川を通じて行われるなど、飛鳥川と強く結びついた生活が営まれている。

このように、奥飛鳥の文化的景観は、飛鳥川上流域において展開される、地形に即して営まれてきた居住の在り方と、農業を中心とした生業の在り方とを示す価値の高い文化的景観である。

### 4 させほしくろしま ぶんかてきけいかん 佐世保市黒島の文化的景観 【長崎県佐世保市】

九十九島のうち最大の島である黒島は、海岸部の標高50m付近までは急な断崖となっている一方、標高約100m以上はなだらかな地形となっており、畑地や集落が点在する。暖流の対馬海流の影響を受けた海洋性気候であるため亜熱帯植物も多く自生している。江戸時代の黒島は、平戸藩に属する西氏の所領であり、藩の牧が置かれていた。18世紀に開拓を目的とする移住が平戸藩の主導で行われ、特に牧廃止後は跡地開拓のためさらに移住が推進された。また、黒島北方に浮かぶ伊島・幸ノ小島は古くから黒島の属島とされ、薪炭採集のほか、伊島では牛の放牧、幸ノ小島は藻場として周辺で肥料用の海藻が採取された。黒島は夏季・冬季ともに季節風の影響を強く受ける地域で、特に台風来襲時には猛烈な南風に襲われる。そのため居住地はできるだけ風の影響が少ない場所が選ばれ、同時に屋敷及び隣接する畑地等の南側を中心に防風林が発達することとなった。防風林にはスダジイなど自然林を活用したものと、アコウなど意図的に植栽されたものが確認される。特に島南部の蕨集落では、亜熱帯系の植物であるアコウが防風林として海側に植えられており、島に豊富な閃緑岩の石で築かれた石垣の上にアコウの大樹の根が張る、特徴的な景観が展開している。

このように、佐世保市黒島の文化的景観は、近世期の牧に起源を持つ畑地やアコウ防風林と石積みによる居住地、属島における生産活動など、独特の土地利用によって形成される価値の高い文化的景観である。

## 5 ごとうしひさかじま ぶんかてきけいかん **五島市久賀島の文化的景観** 【長崎県五島市】

五島列島中南部に位置する久賀島では、島の外縁部を形成する標高2～300m級の山々から中央部の久賀湾に流入する河川が下流域に緩やかな傾斜の沖積地を形成しており、五島列島では珍しい棚田が営まれている。一方、島の外周は急峻な山々がそのまま海に沈み込む地形となっており、特に海流や季節風の影響を受けやすい島の西側には、急峻な海食崖が発達している。久賀湾に面した緩傾斜地には棚田耕作を生業とする比較的規模の大きい集落が形成される一方、急傾斜地が卓越する外海側には小規模な集落が形成され、段々畑での耕作や漁業が営まれてきた。また、外海に面し季節風が当たる地域を中心にヤブツバキの自生地が卓越している。現在も島内に2箇所のヤブツバキ原始林が展開するほか、集落から離れた自生地とは別に居住地近傍や耕作地の周辺にヤブツバキが植栽され、古くから利用されてきた。特にヤブツバキの実を搾ったツバキ油生産は盛んで、整髪用・美容食用・燃料用など様々な利用が行われてきた。

このように、五島市久賀島の文化的景観は、地形条件に応じて形成された集落及びその生活・生業の在り方、また島内に2箇所のヤブツバキ原始林をはじめ、外海側に発達するヤブツバキ林・集落近傍に植栽されたツバキ樹とその利用によって特徴付けられる、価値の高い文化的景観である。

### 《 重要文化的景観の追加選定 》 2件

## 1 しまんとがわりゆういき ぶんかてきけいかん **四万十川流域の文化的景観** ちゅうりゆういき のうさんそん りゅうつう おうらい **中流域の農山村と流通・往来** 【高知県高岡郡四万十町】

四万十川中流域が示す豊かな自然環境と農林業によって形成される多様な土地利用が生み出す文化的景観である。四万十川流域を代表する仁井田米の生産地である市生原地区を追加選定する。

## 2 おぢかしょう ぶんかてきけいかん **小値賀諸島の文化的景観** 【長崎県北松浦郡小値賀町】

多様な地形的特徴を示す島嶼間の移動や近隣諸国との流通・往来に基づいて発展した港や居住地等によって形成される文化的景観である。島嶼の生活や生業を支えた磯場、牧野、薪炭林等を追加選定する。